

石川県立美術館だより

平成17年3月1日発行 第257号

特集

宮本三郎と鴨居玲

3月2日(水)~26日(土)会期中無休
午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)



鼓 宮本三郎



蛾と老人 鴨居玲

目次

花鳥画の世界	2	ミュージアムレポート、次回の展覧会	5
宮本三郎と鴨居玲	3	企画展示室、美術館バスツアーのお知らせ ...	6
常設展示室 主な展示作品	3	展覧会回顧(平成16年度開催の展覧会1) ...	7
講演会記録(私の歩んできた道)	4	3月の行事案内	7
平成17年度の展覧会	5	所蔵品紹介、新年度友の会会員募集	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

常設展示室（前田育徳会展示室）

特集
花鳥画の世界

3月2日(水)~26日(土) 前期
4月1日(金)~17日(日) 後期

今年の干支は「酉」ですが、江戸時代の大名たちの間では、鳥を籠の中で飼育し飼いならず「飼鳥」が行したり、珍しい鳥をすくさま絵図に写させたりするなど、鳥に対する博物学的関心が大いに高まりました。そうした中、絵師によって描かれた鳥類の写生図は、大名たちの尽きることもない興味を満たすものとなり、緻密に描かれた写生図は、大名たちの間で互いに貸し借りするなど重宝されたのです。

今回、前田育徳会展示室にてご紹介する「鳥画帖」もその一つで、鶴・雁・鴨をはじめとした鳥類の様々に描かれた鳥類とともに、木々や草花・水辺まで描かれており、本図が博物学的な目的を果たしただけでなく、絵師にとつては絵画制作の見本ともなっていたことがうかがえます。

一方、訓練を受けた鷹を放ち、鳥を得る「鷹狩」も、大名たちの鳥に対する関心を深めた要因の一つでした。娯楽であったことは勿論、鷹狩で得た珍鳥を他の大名家へ贈るといった政治的役割もあつたのです。鴨・鶉・雁などが頻りに捕獲されたといいますが、当時これら鳥類はもっぱら食用で、特に鶴・鶉・雲雀は饗膳用の食材として珍重されました。まさに鳥が生活全般に深く関わっていた時代だったのです。

加賀藩の御用を勤めた六代梅田九栄によって描かれた「鷹狩図」は、こうした鷹狩の光景を季節の変化を織り交ぜながら描いたものです。冬の巻では、稲刈りを終えた田の上を舞う鶴を、素早く鷹が捕まえる様子や、捕獲した鳥類を揃えた城を目指して、殿様の一行が向かう様子が描かれています。

今回の特集ではこれら二点のほか、王若水「花鳥図」、山本梅逸「林和靖・花鳥図」などを紹介します。なお、「鳥画帖」「鷹狩図」については、場面を替えて、四月以降も引き続き展示します。

「花」と「鳥」。あわせて「花鳥画」と称される画題です。この花鳥画は、人物画や山水画とならび、東洋で最も重んじられた画題の一つで、中国では南朝時代に起こり、唐時代から五代の時期に専門の画家が出て鑑賞画として確立し、大きく発展しました。そして宋時代には宮廷画院による院体花鳥画が隆盛しています。わが国では、平安時代、やまと絵のはじまりとともに、四季絵や月次絵といった年中行事や風物を描いたもののなかに、「花」と「鳥」が添えられました。鎌倉時代に入ると次第に洗練の度を加えていきますが、それは花鳥そのものをテーマに描くものではなく、画中の一部に過ぎませんでした。その後、南北朝時代の頃から、渡来した禅僧たちの影響を受け、水墨花鳥画が描かれたり、室町時代には単独の画題として花鳥画が描かれるようになりました。そして桃山時代には、英雄覇者たちの好みを受けて大画面の障屏画に描かれ発達し、江戸時代にいたつては諸流派の筆による百花繚乱の呈をなすにいたりました。

花鳥画と呼ばれるもののなかには、花と鳥に限らず花卉（花や木）や草虫・小動物・魚藻・蔬菜などをも対象とするものがあります。またそれらを組み合わせたものも花鳥画と呼ばれます。

一方で絵画に限らず、工芸作品から詩歌文芸の世界でも、広く創作の題材として「花」と「鳥」は古来より用いられてきました。古くは、正倉院宝物に残る工芸意匠にその一端を見ることが出来ます。こうした花鳥の表現からは、「花」と「鳥」を愛でる心や、観察しようとする好奇心があつたことはもちろん、人々の心の表裏がうかがえ、興味深いところです。

南北に細長い島国であるわが国は、四季折々の変化に富んでいます。季節ごとに数多くの花が咲き、また身近に鳥があり、遠くから渡り鳥も飛来します。日本人に「花」と「鳥」が欠かせないものとなっているのは当然のことともいえましよう。

本特集では、これら「花」と「鳥」をモチーフにした中国とわが国の絵画作品に工芸品を交えて紹介します。

常設展示室（第2展示室）

特集
花鳥画の世界

3月2日(水)~26日(土) 前期
4月1日(金)~17日(日) 後期



古赤絵金欄手仙蓋瓶 景德鎮窯

常設展示室 (第3展示室)

特集

宮本三郎と鴨居玲

3月2日(水)~26日(土)



裸女達に捧ぐ 宮本三郎



群がる 鴨居玲

本県出身の洋画家で、鬼才という言葉がぴったりと似合うのは宮本三郎と鴨居玲でしょう。その二人は師弟関係にありました。昭和二十一年に金沢美術工藝専門学校(美専、現、金沢美術工芸大学)が開校し、宮本は洋画科の講師を務め、鴨居は第一期生として宮本に師事します。二人の関係は、新聞記者であった鴨居の父、遙が、美専の創立に深く関わり、また宮本と懇意にしていたこともあって、単なる教師と生徒以上のものがありました。

宮本は鴨居の才能を高く買っていましたし、鴨居は宮本を深く尊敬していました。宮本が二紀会を創立して金沢を去ると、鴨居は在学中から二紀会に出品し、頭角を現していきます。宮本の石川県繊維会館(現、金沢市中央公民館西町館)の壁画や、大阪南町会館の綴帳制作も鴨居が助手を務めていました。

でも、破壊型の鴨居は制作に苦しんで、絵をやめようと考えたり、二紀を退会したりまた入ったりと、宮本を少々手こずらせた弟子であったかもしれません。

本年、平成十七年は、明治三十八年生まれの宮本にとつては生誕百年、昭和六十年に死去した鴨居にとつては没後二十年にあたります。そこで、当館所蔵品を中心に「宮本三郎と鴨居玲」を開催いたします。師の宮本が明るく華麗な色彩で、優美な女性像や裸婦を描いたのに対し、鴨居は、暗く重い色調で、醜怪な酔いどれや老婆を描くという対照を見せます。でも、作品は共にドラマ性が強く、その中で人間像を追求し、そして画面は油彩本来の艶のある見事なマチエールが展開されています。両者の個性をご覧いただき、より深い鑑賞に繋がれば幸いです。

主な展示作品

宮本三郎 阿修羅、加賀獅子舞、歌手、裸女達に捧ぐ、

熱叢夢、鼓、木版画「雨もよい」(松崎町蔵)

鴨居 玲 1982年私、おばあさん、望郷を歌つ、

蛾と老人、酔って候

前田育徳会展示室

特集 花鳥画の世界

林和靖・花鳥図

鷹狩図(冬)

鳥画帖

山本梅逸
六代梅田九栄

第1展示室

●色絵雄香炉

色絵雌雄香炉

野々村仁清
野々村仁清

第2展示室

色絵鶏草花図平鉢

色絵鳳凰図平鉢

古九谷
古九谷

特集 花鳥画の世界

古赤絵金欄手仙蓋瓶 景德鎮窯

蒔絵鶏に流水図硯箱

花鳥図

狩野尚信

第3展示室 (油彩画・水彩・素描)

特集 宮本三郎と鴨居玲

上段をご覧下さい。

第4展示室 (油彩画・彫塑)

油彩画

亡き息子を忍ぶ母親の像

ロッシユ展望

彫塑

和

鳥女

竹沢基
田辺栄次郎

第5展示室 (工芸)

深厚釉線文壺

肉合研出宇豆良水指

童子遊ぶ

松

三代徳田八十吉
佐治賢使
木村雨山
談議所栄二

第6展示室 (日本画)

御水送り神事

牛

宿屋

黒田櫻の園
安嶋雨晶
山本隆

観覧料

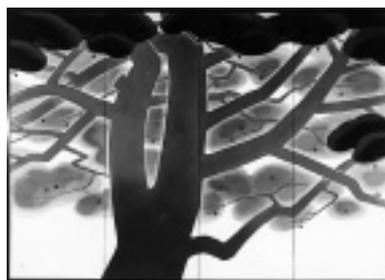
一般 350円	個人	一般 280円	団体(20名以上)
大学生 280円		大学生 220円	
高校生以下は 無料		高校生以下は 無料	

常設展示室

主な展示作品

3月2日(水)~26日(土)

●=国宝 ○=重要文化財
=石川県指定文化財



松 談議所栄二



御水送り神事 黒田櫻の園 (全10枚中の1枚)

● 講演会記録 ●

私の歩んできた道

講師:清水良治氏(彫刻家・金沢美術工芸大学名誉教授)



私が10代の頃は太平洋戦争の真最中で、子ども時代に描いた絵がどんなものだったか振り返りますと、多分、軍艦とか飛行機といった四角や三角で描ける

ようなものばかりだったように思います。大体、絵描きさんとか偉大な巨匠とか言われる人は子供の時からじつに絵が上手なものですが、私はぜんぜん形が描けない人間でした。

昭和20年8月15日、戦争が終わると、一切がそれまでとは全く違う世界になり、180度価値観が転換しました。国民学校が新制中学にかわり、全校写生大会がありました。その時、私は山を描いたのですが山には木があり、どうやって描けばいいのかわかりませんでした。私は、絵が本当に嫌いですがすごいコンプレックスを持ちながら高校に入りました。高校入学はある意味自分探しのようなものでした。ある時、美術教室で顧問の先生の描いた100号の絵を見て衝撃を受けたことがひとつの転機となりました。それ以来、絵描きになりたい、上手いとか下手とか、関係なくただ絵描きになりたいと思いました。

丁度その頃、近所に小学校しか出ていないのですが、鉄道員をしながら絵を描き、独立美術展に出品している人がいました。その人の家に出入りをしていううちに、キャンパスの作り方や絵の具の作り方を教わり、私も独立美術展に出品しました。高校三年になった頃、独立美術展の会員の人が、「若いのが人物描いちゃ無理だよ。デッサン力がないのだから。」と言っていたと聞きました。そこで、どうすればデッサンが身につくのかと先生に相談したところ、彫刻でもやってみたらどうかと言われました。

卒業間近の冬休みに、鉄道に勤めていた友達から周遊券をもらいました。興味本位で金沢の駅に降りたら、空は真っ暗で道路も暗いし雪が残っていました。まるでブラマンクの絵のようで、なんだかパリの古い街へ行っているような変な錯覚を起こすごく感動しました。金沢に来るまでは、焼けた町しか見ていませんでしたが、ここはちゃんとした町で、美術学校があると知りました。それで私は、金沢美術工芸大学の彫刻専攻に入学することにしました。そこで最も興味深かったことは、先輩から彫刻家、特に塑造家というのは粘土が命だということ、一生

使うものだから粘土を大切にすることというのを教わったことでした。そして大学4年生の時、柳原義達先生がパリで長谷川八十先生との交友がもとで、金沢美術工芸大学の非常勤講師として来られることになりました。それから当時のヨーロッパの美術作品に色々触れ、彫刻に対する気持ちが少しずつ変わってきました。それで柳原先生が関係している新制作に出品することに決めました。

その後、柳原先生のお宅にお伺いし、彫刻家が彫刻を造っている姿を初めて見ました。その頃、自分の頭の中には理想の彫刻像として、ギリシャ、デスピオがいましたが、先生の日本人をモデルにした彫刻を見ると、それらに非常によく似ていて感心したものでした。そんな時、デパートの展覧会を先生と一緒に見に行き、そこで「かつてバルザックであった人」という石膏像を見ました。その石膏の美しさに眼からうろこが落ち、そこから真に私の彫刻家としての人生が始まったように思います。柳原先生に「時間があったら遊びにおいで。」といわれ、それ以来先生のお手伝いをするようになりました。そしてある時、先生が三カ月後ぐらいに「デッサン展をやるから君も一緒に描きなさい。」と言われ、そこから僕のデッサンの勉強がはじまり、サインペンでデッサンする事を教えられました。

金沢美大では粘土の事しか習っていなかったのですが、20世紀の彫刻というのは素材が重視されており、私も石彫、木彫、鉄を一生懸命やりました。しかし、一つも作品になりませんでした。作品よりも素材の勉強をし、蠟型をする時でも、人に教わるのでなく自分で工夫しながら作らなければならないということを考えました。今でもそうですが、ものを作ることを人から教えてもらおうと、教えられた所を乗り越えるということが大変に難しいのです。だから、絶対私は、人からものを教わらずに自分で工夫するという自論を持っています。

縁あって金沢美大に赴任することになりましたが、そこには創造を通して人類に貢献する人材を作るという理念があり、創造とはなんだろうと考え、人間の出会いと同じ様にそこから出発して創造に向かっていく形があります。それは人間として素晴らしい事だと考えています。

金沢美大では「人間像の研究」というテーマで研究を進めました。人間像とは何かを考えたのですが、人間が人間であるように、人間の問題、存在というのが第一義であり、永遠の真理だろうと思います。私は、なにかを続けている時、何もできなくて不満を持ちながらも結局は続けていくしかないだろうと思っている今日この頃です。

(「特別陳列 彫刻家 清水良治展」にちなんで、昨年11月14日に当館ホールで行われた講演内容を、当館の責任で要約したものです。)

ミュージアム レポート

キッズ 鑑賞講座

12月4日(土)「版画の魅力」



キッズ 鑑賞講座の6回目は、「版画の魅力」と題し、作品鑑賞だけでなく、版画の種類や道具について学びました。木版見本(凸版)やエッチング見本(凹版)、新聞の写真(平版)、シルクスクリーン見本(孔版)を使って版画の種類や仕組みについて説明した後、ステンシル(孔版)体験に挑戦してもら

いました。スポンジに絵の具をしみこませ、型抜きしてあるシートを紙にあて、楽しそうに取り組んでいました。

さて、ステンシル作品を仕上げたあとは作品鑑賞です。版画技法の制作過程を写真で説明してあるパネルや、道具を見て、版画制作ではいろんな種類の溶剤や道具が使われることを知り、驚いた様子でした。観覧会場にはシャガールや、ミロ、タマヨ、東山魁夷の作品がずらりと並んでいます。作家がそれぞれの持ち味を生かした版画作品を、クイズを交えながら楽しく鑑賞することができました。

今回は版画の技法を少しでも理解してもらいたかったのですが、子供たちには少々難しかったようです。しかし、この鑑賞講座を通して、「版画って面白い、つくってみたい!」と興味を持ってくれたらいいと期待しています。次の鑑賞講座は、3月5日(土)「宮本三郎と鴨居玲」です。

ギャラリートーク

12月18日(土)「大乘寺の文化財」



金沢市長坂の曹洞宗大乘寺の文化財を紹介しました。恒例の観覧会ではありますが、いくつもの質問が飛び出すなど、参加した皆さんの関心は高かったようでした。「楳樹林」「金獅峰」「東香山」などの山号を総門や山門にかかる額の写真を交えてお話しし、大

乗寺の歴史と寺宝について話を進めました。重要文化財の「佛果碧巖破関撃節」が一般に「一夜碧眼集」と呼ばれていることの由来をさぐり、白山権現があらわれてその書写を助筆したとの伝えなど、作品の前ならではの解説となりました。白山権現が助筆したと伝えられる箇所からは、明らかに書体が変わっており、ご覧の皆さんも感心しておられたようでした。

仏様のお名前について詳しい方が多く、十三仏図の前では、ご存知の仏様を指さして話しておられる光景が見られました。しかし、この13の仏がそれぞれ、初七日から三十三回忌までの十三仏事に割りあてられた仏や菩薩であることには、皆さん驚いておられました。

曹洞宗の古刹が、皆さんには身近になったような一時でした。

1月23日(土)加賀藩前田家伝来 - 能面と能装束 - 」



「冬の悪天候の中、どれくらいの方が来てくださるのかしら?」と不安な担当者をよそに、30名以上もの方がお集まりくださいました!子供連れの方が多く、また前週に行った講座にご参加くださった方

の姿もお見受けしましたので、この日は一緒に考えてもらいながら、能面と能装束への理解を深めていただけるようご案内しました。同じような二面の女性面を前に、「この二面の違いは?どちらが若い女性に見えますか?」(答:髪の毛筋、頬の肉付きが違う) 唐織と縫箔を前に、「織りと刺繍で表す模様の違いは?」(答:経糸と垂直に交わる緯糸で模様を表したのが織り、布の上で糸を自由自在に刺し模様を表したのが刺繍)など、はじめは考え込んでしまった方々も、答えを告げると、実際の作品を前にご納得の様子でした。講座とはまた異なった和やかな雰囲気では時間が過ぎ、担当者も観覧者の方々との対話を楽しむことのできた貴重な1時間となりました。

平成17年度の観覧会

平成17年度は、4つの企画展と3つの特別陳列を予定しています。企画展は、春4月に「石川県立美術館の精華 近年の収蔵品から」を開催します。開館当初1,313点でスタートした当館の所蔵作品は、現在2,765点を数えています。その作品は古美術から近現代美術まで幅広く、2階の各展示室を飾ってきました。今回は、とくに近年収蔵の作品を中心に公開し、石川の美術館の歩みを作品とともにご覧いただきます。

秋9月には「サントリー美術館名品展 国宝・重要文化財など日本古美術の粋」と題して、東京・赤坂のサントリー美術館の優品を紹介します。「生活の中の美」をテーマに日本人の生活に深く根ざした美術品の収集と展示で知られる同館のコレクションから、国宝「泰西王侯騎馬図屏風」をはじめ、約130件の選りすぐられた日本文化の精華をご覧ください。

11月には「没後20年 鴨居玲展」が開かれます。酔っぱらいや廃兵、老婆などの作品は、多くのファンを魅了してやみません。今回は油彩画100点のほか、デッサン、資料などを交え、鴨居展の集大成ともいえる規模と内容となります。

新年1月に「黒の迷宮 凝視の刻」という鉛筆画と版画の観覧会を行います。白と黒の迷宮ともいべき緻密な鉛筆画と木口木版など、独特の魅力を広く鑑賞していただきます。

従来「常設展」と呼ばれていた2階の展示を、4月からは「コレクション展」と改めます。常設という言葉には、いつも同じという印象があるため、月ごとに石川の美術館の所蔵作品をご覧いただくということで、新しい名称としました。特別陳列として「作陶55年記念 北出不二雄の世界」「吉田富士夫 手品師の息づかい」「朝鮮のやきもの」の3つを予定しています。このコレクション展では、約2800点にも及ぶ作品群を毎月、入れ替えながらテーマを決めてお届けします。友の会の皆さんは、このコレクション展が年間を通じて無料となりますので、この機会にぜひ足をお運び下さい。

次回の観覧会

特集 花鳥画の世界 (前田育徳会展示室)
 特集 花鳥画の世界 (第2展示室)
 4月1日(金)~17日(日)

企画展示室

第27回一創会展金沢展

3月2日(水)~7日(月)第8・9展示室)

新春、東京都美術館にて開催された本展の中から、基本作品、受賞作品及び石川県内作家の力作約120点を選び、金沢での巡回展を開催いたします。

何ものにも制約されない自由な作品群をご鑑賞下さい。

主な出品作家

横塚 繁 今村昭寛 真辺啓介 寺西武久
西山英二 増田真人 蓮井廣幸 梅沢曜行
虎井 修 松本陽子

入場料 一般500円 大高生400円

中学生以下無料(団体は各100円引)

当館友の会会員は、会員証提示により

団体料金になります。

連絡先 小松市二ツ梨町ク-19-15 寺西武久

☎0761-44-4235

第28回伝統九谷焼工芸展

3月11日(金)~24日(木)第7展示室)

昭和51年に郷土が誇る九谷焼の技術保存と発展向上を図るため、九谷焼技術保存会が石川県無形文化財として指定されましたが、本展はその技術保存会の事業の一つとして毎年行われている公募展で、今回は28回目です。入選作並びに九谷焼技術保存会会員の作品を一堂のもとに展示します。

入場料 一般350円 大高生300円

中小生250円 (団体は各50円引)

当館友の会会員は、会員証提示により

団体料金になります。

連絡先 能美市寺井町よ25番地 石川県九谷会館

☎0761-57-0125

04 玄土社書展

3月11日(金)~13日(日)第8・9展示室)

04年の玄土社活動のまとめの展覧会です。新しい書表現を試みる抽象作品40点、中国の前漢から唐、日本は奈良・平安の書の古典を再現した臨摹作品30点を展示いたします。

それに併せて、今年6月、パリで開催される「Omote 前衛書の仲間たち」展(日動画廊が主催する初めての書展)の国内発表をいたします。表立雲外20名の玄土社仲間の作品をお目にかけます。

トークタイムのテーマは、「古典研究と作品」です。書の古典、新しい書を理解していただく良い機会になると思います。ご来場をお待ちしています。

ご来場をお待ちしています。

会期中の行事 「表立雲トークタイム」

日時・会場 3月13日(日)午後2時~ 講義室

入場無料

連絡先 金沢市本多町1-7-15

玄土社主宰：表立雲 理事長：松村知春

☎076-263-0122

第29回日本海造型展

3月16日(水)~21日(月)・振替第8・9展示室)

日本海造型会議の19名が、自己表現の可能性を追求し、絵画、彫刻、デザイン、映像、建築、書、造形、漆、陶、ファイバー等の意欲作を発表します。既成のジャンルを超え、交流する中で、新しい北陸の文化の醸成に努めようとするものです。今回はテーマを「結」とし、一室触れることの出来る作品もあります。

入場料 一般600円 大高生400円 中小生200円

(前売り料金は各100円引き)

当館友の会会員は、会員証提示により

前売り料金になります。

連絡先 金沢市山科1丁目14-40 三井泰子

☎076-241-2779

年間の展覧会案内に掲載されていた第23回石川県写真家協会展(会期：3月2日~6日)は、都合により中止となりました。

第2回美術館バスツアーのお知らせ

昨年からはまりました美術館バスツアーですが、2回目は、七尾美術館で開催予定の「長谷川等伯展~国宝・松林図屏風~」を鑑賞しようと計画しています。現在下記の予定で準備を進めています。見学コースや日程等の詳細は、来月号に掲載しますので、しばらくお待ちください。

日程 5月1日(日)
集合・解散 金沢駅西口バスターミナル
見学先 七尾市
見学地 石川県七尾美術館
石川県能登島ガラス美術館
山の寺院院群他
募集定員 45名
申込方法 往復葉書

展覧会回顧

平成16年度開催の展覧会1

今年度も当館では、一階の企画展示室や二階の常設展示室（来年度からは、コレクション展示室と名称が変わります。）で数多くの展覧会が開催されました。

企画展示室では、当館主催の「日本の四季 - 春・夏の風物 - 」、「没後30年 香月泰男展 - 私の シベリア、そして 私の 地球 - 」、「新春を寿ぐきもの之美 - 彩をまとう匠を着る - 」や、「ピカソ、マティスと20世紀の画家たち」、「よみがえる中国歴代王朝展」などの報道機関主催の企画展、また各種美術団体の公募展や巡回展というように、今後三月末までに開催予定のものを含めまして30回を数えます。常設展示室（コレクション展示室）で行った特別陳列や特集は29回となり、1階と2階を合計すると59回という多くを数えます。それらの中からいくつかの展覧会を振り返ってみたいと思います。

「日本の四季 - 春・夏の風物 - 」は、桃山時代、江戸時代の絵画と工芸品の中から、春・夏の花木草花を主題とする作品と、春・夏の季節の情趣をよく表す事物を取り上げた作品、季節感を感じさせる人々のくらしを取り上げた作品111点を展示し、日本美術の特色の一つといえる自然に対する優しい情感をたたえる作品を鑑賞していただきました。

前半は、それぞれの花木草花のもつ良さ、特徴をうまく捉えた作品群により、こうした自然美によってはぐくまれた日本人特有の微妙な感受性の世界、自然に対する優しい情感等々を堪能いただけたことと思います。後半の風物を取り上げた作品群は、各作品の成立、展開も紹介したいねらいをもっていました。説明不足だったように思います。また、洛中洛外図、四季耕作図、風俗図などは、それぞれ単独での展覧会で紹介した方がより理解をいただけたように思いました。

「ピカソ、マティスと20世紀の画家たち」は、フォーヴィスムとキュビスムの画家たちの作品を紹介するものでした。マティス、マルケに代表されるフォーヴィスム（野獣派）の画家たちは、造形要素の中でも色彩

に注目し、自然を再現する役割から色彩を解放し、強い原色の色彩と奔放な筆触の作品により自分たちを表現しました。ピカソ、ブラックによって創始されたキュビスム（立体派）は、ヨーロッパ絵画をルネサンス以来の写実主義的伝統から解放した絵画革命とされるものですが、造形要素の中でも空間に注目し、形を論理的に解体し、見たまま、感じたままだけでなく、モチーフについて知っていることを描いたのであり、やがては抽象絵画へとつながっていきます。20世紀初め、フランスで起こった代表的な美術運動フォーヴィスムとキュビスムの画家たちの作品を紹介することによって、20世紀美術の方向付けをしたふたつの運動の理解が深まったのではないかと思います。昨年開催いたしました19世紀中頃のバルビゾン派の展覧会に続いてのヨーロッパ絵画の展覧会であり多数の入場者で賑わいました。

「よみがえる中国歴代王朝展」は、2004年が中華人民共和国建国55周年にあたることから開催されたものでした。至宝が語る歴史ロマン - 殷から宋まで - をテーマに【初期王朝期の諸文化 - 中国文明の創成】【巨大帝国の誕生】【激動する東アジア - 三国から宋】の三部構成により、中国各地の博物館の所蔵品100点の展示でした。昨年開催いたしました「北京故宮博物院展」に続いての開催でしたが多数の入場者で賑わい、中国文物に対する関心の高さが再認識させられました。

（南 俊英 学芸第一課長）



「日本の四季 - 春・夏の風物 - 」展覧会場

3月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)いずれも午後1時30分から行います》

月日	行事	内容	会場
3/5(土)	キッズ鑑賞講座	宮本三郎と鴨居玲(吉村尚子 学芸主任) 小学生対象の講座です。常設展示を鑑賞しながらの講座になります。	講義室 常設展示室
3/6(日)	月例映画会	宮古上布(40分) 彫金 鹿島一谷のわざ(30分)	ホール
3/12(土)	美術講座	映像の歩み 写真編 (西田孝司 学芸専門員)	講義室
3/13(日)	ビデオ鑑賞会	国宝16 巖島神社(30分)	ホール
3/19(土)	ギャラリートーク	宮本三郎と鴨居玲 (二木伸一郎 学芸専門員) 展示室内で行われるため、常設展示の入場券が必要です。	常設展示室
3/20(日)	月例映画会	人形作家・秋山信子 - 心やすらぐ人形を - (38分)	ホール

3月の全館休館日は1日(火)・27日(日)~31日(木)です。



石川県指定文化財
いろ えうずらそう か ず ひらばち
色絵鶉草花図平鉢 古九谷

江戸時代 17世紀
口径30.6 底径18.6 高7.0 (cm)

見込に二羽の鶉を描いています。水辺に遊ぶ姿は生き生きとしており、一羽はしっかりと立ち、また一羽は水に潜ろうとしています。おそらく、つがいを意識して描かれたものでしょう。鶉は、桃山時代以降、土佐派が画題としてしばしば取り上げました。紫で描く鶉に対し、上方に大きくせり出した粟の穂は緑と黄色で彩られており、対照的に浮かび上がります。背景となる草花や土坡は、紫・紺青・緑・赤・黄の五彩を駆使して表現されています。水の青は際立つており、空に浮かぶ雲は赤く、土佐派の筆致で綿密に描かれています。

絵画のような見込に対して、縁は八つに間取られています。デザイン化された文様で、紺青と黄による七宝文と縁彩に卍の入った四方禪文が交互に配されており、効果的に全体を引き締めています。

裏面は、比較的大きな高台を取り巻くように染付で牡丹唐草を描いており、尖った形の花弁が印象的です。銘は、一重角の中に隸書で「福」字を染付で書いています。

比較的薄造りの素地で硬く焼き締まっていますが、器の形は正円ではなく、わずかにいびつになっています。おそらく、焼成の温度に多少問題があったものと思われる。しかし、こうした点を差し引いても余りある優れた出来映えで、古九谷の中にあつて、五彩の絵具の色調がもつとも整った代表作として知られており、優品の一つに数えられます。

第2展示室で展示中

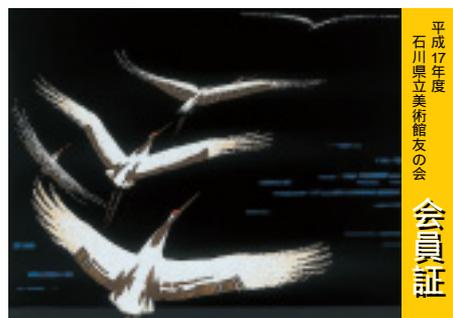
3月2日(水)より受付開始
新年度友の会会員募集!!

- 募集定員 1,500名
- 会費 2,000円
- 受付場所 当館図書閲覧室
- 受付時間 休館日は除く午前9時30分～午後4時30分
3月1日(火)・27日(日)～31日(木)は展示替えによる休館日ですのでご注意ください。
- 郵便でのお申し込みについて
ご希望の方は郵便振替をご利用ください。
詳細は『美術館だより』第256号をご覧ください。
会員証は『美術館だより』と一緒に、3月末頃からお送りいたします。
- 郵便振替口座 00700-7-46490
- 加入者名 石川県立美術館友の会

会員の特典

- 当館コレクション展(従来の常設展)に何度でも無料で入場
- 当館企画展入場券(1枚)の配布
- 当館企画展の開会式にご招待
- 当館主催展覧会入場料の割引(同伴者2名まで)
- 当館主催諸行事への参加
- 『石川県立美術館だより』を毎月郵送

お問い合わせは当館普及課友の会係まで ☎076-231-7580



平成17年度
石川県立美術館友の会
会員証

新年度会員証(見本)
金胎時絵漆箱「飛翔」(部分) 寺井直次

休館日：3月1日(火)・27日(日)～31日(木)

石川県立美術館だより 第257号
2005年3月1日発行
〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>